

立秋

暦の上では、秋がやってきました。秋の声が聞こえます。「秋の声」とは、具体的に、夜の静寂の虫の声、稲穂を渡る涼しい風の音、遠く聞こえる海鳴りの音でしょうか。今年は、アブラゼミのなく声も、7月になってからしばらくは聞こえず、燕のひなの親鳥を待つ声の後、雨の音ばかりが毎日続く日々でした。

土用になってからも、日照不足がしばらく続き、畑の作物にも甚大な影響を及ぼしました。きゅうりのつるにナメクジが取り付いて、せっかくなり始めたきゅうりは、一本を除いて枯れてしまいましたし、茄子の花も雨に濡れながらひそやかに咲いてはいるものの、背丈が伸びない中で小さいうちに実が成長しなくなるということがあります。

インゲン豆など、まっすぐには伸びず、ごつごつしてはいるもののやっとな大きくなったものを収穫したのちに、二番手の花が咲くことがなく、とてもさみしいものとなりました。

九州を中心に自然災害に苦しんだ地域もあり、まだましなほうなのだと心を励ましながら、晴れ間を見つけて、せっせと草刈りや空き地を耕していく中で、スイカがいくつか大きくなっているのが心の支えです。

お盆が近づくと、海が荒れ模様になり、それこそ土用波が立ち、海水浴どころではありません。いつしか、土用を迎え、その土用も今日の立秋で終わってしまいました。ウナギを食べる暇もなかった近年にない日々です。

ところで、そんな日々でも、夏季課外は有無を言わず進行し、3年生は12日間、1・2年生は9日間の予定を無事終えることができました。

3年生は、8月10日・11日に、全統マーク模試を医療創生大(いわき明星大が今年の4月に名称変更した)で実施し、8月24日・25日に全統記述模試を受験します。とりあえず、1か月間の受験勉強の目標がどれくらいの効果を得ることができたかを点検するチャンスです。といっても、そんなに簡単に成績は上がりません。学習の内容がどの程度出題されたのか、理科社会の進捗状況は大丈夫なのか、英数国については、センターの過去問をやることによって今回のテストによる影響を及ぼしたか、英語長文や現代文長文の読む時間は十分に確保できたか、できなければそのことを予測していたか、などなど次のステップに進むためのチェックポイントは山ほどあります。

1・2年生は、8月24・25日に全統模試があります。自学自習で数ⅢCの教科書を終えたものもちらほら出ているとか。やっといつもの磐城高校生の学習になってきたかとは思っていますが、まだまだやらねばならないことは山ほどあるので、きちんと目標をもって、高い志のもとに学習を続けていきましょう。

この季節をうまく乗り切っていきましょう。やっ自分のペースを作ることができた生徒諸君は、あと10日に全身全霊をかけていきましょう。

